

招集年月日	平成29年4月21日(金)	午後1時30分開会
会 場	小美玉市本庁舎 3階 議会委員会室	
出席委員	岩本好夫委員長・幡谷好文副委員長・市村文男議長・野村武勝・大和田智弘・小川賢治・福島ヤヨヒ・谷仲和雄・木村喜一	
欠席委員	荒川一秀・戸田見成	
説明員職氏名	島田市長・林副市長・島田市長公室長・白井企画財政部長・山口産業経済部長・成井福祉部長・太田企画調整課長・佐々木まちづくり戦略室長・磯部まちづくり戦略室係長・東梅まちづくり戦略室主事・倉田政策調整課長・中本政策調整課主幹・近藤政策調整課主幹・関秘書広聴課長補佐・滑川市民協働課長・貝塚市民協働課長補佐・藤田子ども福祉課長・酒井子ども福祉課長補佐・原田子ども福祉課主幹・中村商工観光課長補佐・新保商工観光課主幹	
職務出席者の職指名	書記 富田 成	
付託事件	①ダイヤモンドシティ・プロジェクトの進捗状況 ②政策提言の進捗状況 ③その他	
	開会宣言 平成29年4月21日 午後1時30分	
幡谷副委員長	皆さんこんにちは。定刻になりましたので、地方創生まちづくり特別委員会の方を開催いたします。まず、委員長から挨拶をいただきます。	
岩本委員長	皆さんこんにちは。まずもって、地方創生まちづくり特別委員会ありがとうございます。今日は、ダイヤモンドシティ・プロジェクトの進捗状況であったりとか、政策提言の進捗状況各課のほうからご報告をいただきます。議員の皆さまからはいろいろ意見いただいて、これからの地方創生手探りで模索していきたいと思います。その他のほうでも今回DMOについて議題に上げさせていただいております。難しい課題なんですけど、小美玉市のこれからの将来の可能性ということで、皆さまといろんな形でまちづくり考えていければと思います。よろしく願いいたします。	
幡谷副委員長	続きまして、市村議長より挨拶をいただきます。	
市村議長	はいそれでは、改めましてこんにちは。お忙しい中、大変ご苦勞様でございます。今日は地方創生まちづくり特別委員会ということで、ダイヤモンドシティ・プロジェクトの進捗状況、あるいは政策提言の進捗状況ということで、ただ今委員長のほうからありましたようでございますが、観光地域づくりということで、またこのDMOについてもいろいろと説明があるようでございますので、よろしく願いしたいと思います。これからの小美玉市のまちづくりといえますか、新しく総合計画をつくる大事な時期でもありますので、よろしく願いしたいと思います。今日は大変ご苦勞様です。	
幡谷副委員長	続きまして、執行部より島田市長挨拶をお願いいたします。	
島田市長	はい改めて、こんにちは。議員の皆さま方には何かとお忙しい中こうして集まっていたいて、地方創生まちづくり特別委員会ということで、誠にご苦勞様でございます。また過日は臨時議会を開いていただいて、羽鳥駅の橋上化に	

	<p>向けての議案をお認めいただいたということでございました。誠にありがとうございました。誠にありがとうございました。またそのときのいろいろなご意見を真摯に受けとめて、これからの進める中で十分検討し活かしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。またこの特別委員会で提言などもたくさんいただいているわけでありまして、その都度うちのほうでも調整会議を開催してまとめたり検討したり進めてきているところでございますので、今日はそのような意見を交換しながら、さらにこの中でご意見などをいただきながら、より良いまちづくりダイヤモンドシティ・プロジェクトに遅れることなく、その計画に基づいて進めるよう、そして小美玉の魅力を次から次と発信していくこれが一番大事なところでございますので、ご支援のほどよろしくお願いしたいと思います。本日は誠にご苦労様です。</p>
幡谷副委員長	<p>ありがとうございました。早速協議に入りたいと思っております。議事の進行については委員長お願いいたします。</p>
岩本委員長	<p>それでは早速協議事項に入らせていただきます。1番項 ダイヤモンドシティ・プロジェクトの進捗状況ということで、各担当のほうから報告をお願いします。</p>
太田企画調整課長	<p>それではこれよりお手元の資料、平成28年度ダイヤモンドシティ・プロジェクト関連事業進捗一覧表に基づきまして、各所管課担当より順次ご説明を申し上げます。説明にあたりましては、担当課ごとにプレゼンの仕方が異なりますけれども、あらかじめご了承いただきたいと思っております。また一覧表3ページに平成29年度関連事業の一覧を掲載しているところでございますけれども、こちら参考までにお示しをさせていただいているものでございます。本日の説明にあたりましては、平成28年度事業の進捗状況に限定させていただきますこと、あらかじめご理解いただきたいと思っております。それでは担当課別にご説明申し上げます。説明にあたりましては着座にて失礼とさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
酒井子ども福祉課長補佐	<p>それでは子ども福祉課で実施いたしました、平成28年度ダイヤモンドシティ・プロジェクトの進捗状況につきまして、ご説明させていただきたいと思っております。失礼いたしまして、着座にて説明させていただきます。はじめに、恋愛・結婚イメージアップ事業でございますが、お手元の配布資料の4ページになります。まず、オリジナル婚姻届を作成いたしました。お手元にサンプルも配布させていただいております。事業はオリジナル婚姻届印刷の3万円で250枚を作成いたしました。オリジナル婚姻届は、総合戦略の名称ダイヤモンドシティをロゴマークとしてあしらい、ロゴマークに使われている色彩のみで小美玉市の地域資源を周囲に描いています。それら一つ一つがダイヤの輝きを織り成す要素であり、婚姻届を提出するお二人も、小美玉市の輝きを織り成す要素であることを表現しています。3月27日から3庁舎の窓口に配置すると共に、市のホームページからもダウンロードすることができます。4月20日現在で、オリジナル婚姻届を利用して小美玉市へ届出された件数は2件でございます。次に、恋愛結婚イメージアッププロモーションビデオ「Diamond Wedding」を作成いたしました。事業費は結婚式プロモーションビデオ作成委託料の191万7,864円でございます。子どもの頃は誰もが夢に描いたキラキラとまぶしく輝く憧れの結婚式、そんな思いを小美玉イコールドイヤモンドになぞられ、映像として</p>

表現いたしました。映像は登場する場所や風景、出演者にいたるまで全て小美玉市で撮影したもので、この映像を通じ子どもたちには結婚に対する憧れを、若年層には結婚したいと思える幸せなイメージをお届けできればと考えております。次に、婚姻届提出時記念撮影バックボードと希望者に配布する、結婚記念証を作成いたしました。記念証につきましては、お手元にサンプルを配布させていただいておりますので、ご確認いただきたいと思います。事業費はオリジナル婚姻届等作成委託料の125万1,720円でございます。こちらにつきましても、3月27日からバックボードは3庁舎の入り口付近に設置し、記念証は3庁舎の窓口に配布してございます。恋愛・結婚イメージアップ事業につきましては、今後作成したオリジナル婚姻届や、バックボード及びプロモーションビデオの活用について、その効果を高めるため広く周知を図るなど、様々な手法を検討し実施して参りたいと考えております。続きまして、多彩な合コン、街コン事業でございますが、配布資料の5ページになります。平成28年度は、5回開催しております。詳細につきましては、配布の平成28年度多彩な合コン・街コン開催状況をご覧くださいと思います。また事業の開催にあたっては、小美玉市結婚推進事業実行員会を組織し、事業内容について検討していただいております。事業費は5回の事業総額で43万2,015円でございます。こちらの写真は第1回の地引網体験&バーベキュー&小美玉ご飯の様子になります。こちらの写真は第3回の恋するプレはろういんと、第4回の犬好き猫好き大集合ペット婚の様子です。多彩な合コン・街コン事業につきましては、参加者の確保が難しいところではありますが、周知や開催方法について工夫すると共に、参加者のアンケートを見ると好評を得ているところでもありますので、引続き実施して参りたいと考えております。またこの事業の成果として、婚姻実績の確認方法について、検討して参りたいと考えております。次に、婚活事前講座でございますが、資料の6ページになります。平成28年度は4回開催しております。詳細につきましては、配布の平成28年度婚活事前講座開催状況をご覧くださいと思います。事業費は、講師への謝金としまして4万円でございます。結婚に向けた気持はあってもなかなか結婚にいたらないという方も多いことから、男性や女性の魅力アップのためのノウハウや、まずはお友達からの結婚へ向けた第1歩を踏み出すための講座を開催いたしました。画面のほうの写真は、女性を対象とした第2回の「メイク&カラー印象UP術講座」の様子です。今映っている写真につきましては、多彩な合コン・街コン事業の第5回「ガチで婚活」の前に、高感度をアップするしぐさや、話し方などの講座を開催した様子になります。婚活に参加する際の心構え、あるいは積極的にアプローチをすることなど、少人数クラスで具体的な例を上げての説明や、参加者の思うことに対するアドバイスなどを受けることができました。この講座後に開催しました「ガチで婚活」では、男性8名、女性10名の参加にも係らず、6組のカップルが成立するなど成果をあげています。婚活事前講座につきましては、男性の参加者が少なかったことから特に男性については、多彩な合コン・街コン事業の前の講座とするなど企画内容を検討し、引き続き実施して参りたいと考えております。次に、イクメン成長物語でございますが、資料の7ページになります。平成28年度は3回開催しております。詳細につきましては、配布の平成28年度イクメン成長物語事業講座開催状況をご覧くださいと思います。出産後の女性の継続就業率の向上と、男性の育児参加の促進など、仕事と生活の調和ワークライフバランスの実現を目指すと共に、若い世代の出産子育ての希望を叶えられる事業と取り組みを目指しました。事業費は講師への謝金としまして4万円、パパの料理教室の材料代として6,233円の、合わせて4万6,233円でご

ざいます。こちらの写真は第1回の「怒鳴らない子育て講座」と第3回の「家族を撮ろうの実践講座」になります。こちらの写真は第2回の「パパの料理教室」になります。イクメン成長物語事業につきましては、今後男女共同参画やワークライフバランス、働き方改革などに関する啓発と合わせて、男性の家事や育児などへの参加の必要性について理解を深められるような啓発事業の連携が必要ではないかと考えております。次に、出産子育て情報アプリ事業でございますが、資料8ページになります。子育て世代に対する積極的な情報提供を行うため、子育てサイトと子育てアプリを構築いたしました。事業費は、サイト及びアプリの構築と運用を合わせて5年間の長期継続契約としたことから、平成28年度事業費は、ひと月分の4万500円になります。この写真は、子育てサイトと子育てアプリのトップページになります。子育てアプリは、ホームページ子育てサイトの情報を、出先などでもスマートフォンなどから手軽に確認できるよう利便性を向上させたものです。主な機能は、保育所などの施設の位置情報や妊婦記録、成長記録、また予防接種やイベント情報をプッシュメールでお知らせする機能となっており、画面の赤字で表示されているものは、アプリ独自の機能となっております。いくつかアプリの機能の例を説明させていただきたいと思っております。こちらは成長記録の例になります。トップページの成長記録をタップすると、成長記録の画面に移ります。成長記録の画面から身長・体重をタップすると、身長・体重の画面に移り身長・体重を入力することができると共に、成長曲線として自動で表示されます。また、成長記録の画面には日記機能もあり、複数の子どもさんの記録を緑色の丸で囲まれた部分をタップすることで、簡単に表示切替することができます。登録は5人まで可能となります。次に、予防接種記録になりますが、どの予防接種をいつ受けたかと日付を入れると、次の予防接種の目安の日付がでます。また予防接種の日が近くなったら、個別にお知らせメールが届くこととなります。次に、子育てマップになります。施設の一部を地図で確認することができます。例えば、子育てサイトのほうにもオムツ替えのできる一覧がありますが、アプリの場合ですと自分のいる位置からの距離を指定して、その範囲にある施設の表示や行きかた所要時間などを検索することができます。市役所、保育所、小中学校などの施設もマップで検索することができます。出産子育て情報アプリについては、今後掲載される情報内容の充実を図ると共に、掲載情報の更新削除等の管理を十分に行い、利用者にとって利便性の高いシステムとして維持して参りたいと考えております。次に、子連れに優しい店舗の推奨事業でございますが、資料9ページになります。この事業は、子どもさんを生み育てるための環境整備として、市内の事業所等への駐車場にマタニティマークなどを設置する事業等へ、その経費の一部を助成するものでございます。この事業の周知につきましては、申請の受付期間を平成28年12月20日から平成29年2月20日とし広報おみたまや、市ホームページ、さらには直接事業所への訪問を行うなどして行ってきましたが、平成28年度中の申請はありませんでした。今後は取り組み内容について改めて検討し、環境整備事業を進めて参りたいと考えております。子ども福祉課の事業につきましては、以上でございます。

中村商工観光課長補佐

商工観光課のほうから、ダイヤモンドシティ・プロジェクトについての報告をさせていただきたいと思っております。座って失礼いたします。私のほうからは、10ページ春秋航空機内観光PR業務委託ということで、事業内容を説明させていただきたいと思っております。茨城空港から一番近い空の駅そ・ら・らへの誘客を図る目的で、中国から訪日される中国人等において、春秋航空機内において配

られるトラベルセットに、中国語に作製したパンフレットを配布したものでございます。トラベルセットにしたことで確実に手に渡り、旅行中に持ち運べるようにいたしました。が、そ・ら・らへの誘客につながったかということにおきましては、来場者数が前年度と比較しましても増えていないということがありまして、実情を図るのが難しいというところが課題となってしまいました。これはあくまで推測なのですが、やはり空港からそ・ら・らまでの間の移動手段が難しかったという推測がされるのではないかと思います。続きまして、11ページ旅行商品増勢促進業務委託、インバウンド観光促進計画作成委託ということで、こちらは中国人のインバウンド需要の取り組みに向けて、茨城空港を利用する中国人の属性、観光ルート、ニーズを把握しようということで行いました。またその調査結果をもとに中国人観光客に向け、小美玉市発着旅行商品の増勢を行いました。まず始めに、小美玉市発着の商品増勢に向けた勉強会をいたしました。こちら中心となったのが、日中友好平和協会とダイヤモンドシティ・プロジェクトのメンバーを主に主体といたしまして、旅行商品増勢セミナー等を開催いたしました。その後、ツアーの企画検討会を中国人18名、日本人2名で実際に考えた観光ルートを周遊したというものでございます。ツアーの題名といたしまして「小美玉の食材で絶品鍋ツアー」と称しまして、ツアーを開催したところでございます。ルートはそちらに記載されていますように、ヨーグルト工場に見学のあと、クリームチーズ作りを、そ・ら・らで行いまして、ニラの収穫体験、橋本旅館での昼食、鳳林院での座禅体験、そして空の駅そ・ら・らに戻ってきまして、お買物というルートになっております。今回のツアーの内容でとても好評を得まして、ニラの収穫体験などでは、旅行会社が実施するツアーに組み込まれることとなりました。また、座禅体験におかれましても中国では体験できないということで、とても好評を得ました。今回のツアー情報を中国人参加者がリアルタイムにウィッチャーに掲載したところ、後日、旅行会社の方からお話がありまして、小美玉市に行きたいという声が多くあったということお伺いしました。その後、市と観光協会、旅行会社を交えまして今後の中国人受け入れ態勢の構築に向けて、話し合いをしたところでございます。続きまして、13ページ観光PR推進事業、この事業では日本語版と中国語版に分けて配信用の動画を作成いたしました。中国人観光客を市に取り込むという目的で、1本目が小美玉ツアー夏祭り編映像、2本目が小美玉ツアー秋収穫編映像の動画を2本作成し、ユーチューブで発信しております。また茨城空港内では中国人及び空港利用者に対し、小美玉市の特産品であるヨーグルトを試食させまして、PR商品の拡大と市への誘客を図ったところでございます。現在配信動画につきましてはユーチューブで配信済となっておりますが、今後は茨城空港や各公共施設で流す予定でございます。またヨーグルトに関しても3回にわたりふるさと食品公社の、おみたまヨーグルトの試飲会を開催しましたが、海外では無料配布を装った詐欺が多いということで警戒されて、手には取ってもらえなかったというのが反省点でございます。続きまして、14ページこちらはDMO形成データ収集分析データということで、こちらはその他のところで詳しくご説明させていただきたいと思っております。DMOというのは何なのかということから始まりますが、Dはディスティネーション（目的地、到着地）Mはマネージメント（マーケティング、経営、市場）などを日本語では言います。Oはオーガニゼーション（組織、団体）という意味をもっておりまして、その頭文字をとってDMOということ。日本語でいうと繋がりますと、地域の中心となって観光を盛り上げてくれる組織団体といった意味になるかと思います。こちら小美玉市のDMO形成において、

作るか作らないかそちらも念頭におきまして調査、分析をJTBに委託し、JTBと茨城大学の学生に委託しまして調査、分析をしていただきました。実施状況といたしましてはワークショップを2回ほど行いまして、その中で小美玉市と同じ酪農が盛んな岩手県葛巻町というところに、実際にDMO形成に向けた取り組みがなされているということをお伺いしまして、意見交換と伴にまちの現状を視察して参りました。一言でいいますと、この岩手県葛巻町というところは酪農が盛んで、一般社団法人葛巻町畜産開発公社という会社を中心になっておりまして、こちらが第3セクターだということですが、新たな観光商品の開発、例えば乳製品とかワインなどの特色ある地域資源を活かしまして、観光産業に取り組んでおりました。今後小美玉市でもDMOを形成するか否かという議論にはなるかと思いますが、現在隣接市町村でもDMOを形成に向けての取り組みがなされているところで、茨城県の観光物産協会では登録に向け候補になっておりますが、現在まだ登録されてないとのこと。また城里町、常陸大宮市版DMO、鹿行地区5市で形成されている鹿島アントラーズホームタウンDMOの2団体では、DMO形成に向けて検討をしている段階と聞いております。小美玉市のDMO形成することに関しましては、今後の大きな検討課題になってくるかと思えます。続きまして、15ページ小美玉観光協会事業、こちらの内容といたしましては現在茨城空港を利用しつつ小美玉市内になかなかとどまらない中国人観光客の市内への誘客を促進するため、中国人旅行客が観光しやすいような環境を整えるということです。こちらは小美玉観光協会に委託いたしまして、7つの事業をしていただいております。説明が中国人観光客受け入れセミナー、外国語表記案内等作成補助、中国人向け掲載サービスの導入、中国語研修、小美玉コンシェルジュ設置、旅行者新制度の創設、中国人観光客市場調査アンケートなどをやっていただきましたが、この中で中国人観光受け入れセミナー、外国人表記案内等作成補助、中国人向け掲載サービス導入と小美玉コンシェルジュ設置は、平成29年度も継続して行っていく事業となっております。続きまして、16ページ観光資源PR業務委託、こちららはドローンを活用し市の観光資源等の紹介をする空撮PR動画を製作いたしました。ドローンをおみたんに置き換えまして、おみたんが小美玉市を上空から見ようというコンセプトのもと、小美玉空の旅と称しまして、市の観光資源や名所を子供たちにも見てもらえるよう、市のマスコットキャラクターを使わせていただきました。これから作成した映像は空港、公共施設、ユーチューブ等で配信される予定です。今後のこの映像の活用方法なのですが、配信以外には活用できないのを検討していきたいと思っております。なかなか上空から小美玉市を見ることができないということで、子供たちなどに市のことをもっと知ってもらう何かのツールとして活用ができないのかなということで、検討していきたいと思っております。続きまして、17ページ就農創業スタートアップ事業、講師派遣業務委託、こちらは市内外の就農創業予定者及び企業者を対象といたしまして、創業支援セミナーを開催いたしました。この中で中小企業診断士を講師に迎えまして、就農創業を成功させるための、ノウハウを教えてもらい、仲間と共に商品のアピールや売り込み方法を学んで、就農創業の不安を払拭するというものでございます。申し込みは7名ほどございましたが当日は市内2名、市外2名の参加者で全部で4名の参加者がございました。今回市内だけではなく市外からも参加者を募ったわけではございますが、自分の住んでいる自治体にはネット検索をしてもこのような事業はないとのことで、お互いにこれから相談交流ができたようで好評を得ておりました。今回の問題点といたしましては、その創業後の経営指導、議員の立場の商工会のほうにお願いした

	<p>いなと思っていたところなのですが、いろいろ事業がございまして、不参加ということでありましたので、今後こういう創業に向けての取り組みをするときには商工会とも連携して、開催を検討していきたいと思っております。続きまして、18 ページこちらは就農創業スタートアップ事業作成事業についてのポスター作成費となっておりますので、詳しくはご説明いたしませんチラシ、ポスターの作成代となっております。私のほうからは以上で、報告を終わりにしたいと思います。</p>
倉田政策調整課長	<p>着座のまま失礼いたします。私のほうからは政策調整課及び秘書広聴課所管事業について一括してご説明させていただきます。資料 19 ページをご覧くださいと思います。政策調整課所管の小美玉市移住促進プロモーション映像、政策産業業務委託につきましては、既に事業は完了しております。実施状況及び成果といたしましては、プロモーション映像、通常バージョンの若者編とマスターズ編これが2種類、台詞をテロップ表示にしました無音声対応バージョン、若者編、とマスターズ編が2種類、ショートバージョンといたしまして若者編、マスターズ編の1種類の合計5種類を製作いたしました。成果品の数量につきましては、DVD26枚、ブルーレイ5枚、保存用DVD2枚、映像シナリオウェブを納品いただいております。通常バージョンにつきましては既に市のホームページ移住情報サイトの全国移住ナビ、ユーチューブ、みの〜れ、アピオス、コスモス、そ・ら・らで視聴可能となっております。またショートバージョンにつきましても、ユーチューブでご覧いただくことができるようになっております。今後は市内外へのPRのため、さらなる映像の発信手段の検討が必要であると考えておりますので、民間企業を含めた映像可能な施設を調査して参りたいと思っております。議員の皆さまには効果的な放映施設となる民間企業などありまらご紹介いただければ幸いに存じます。よろしく願いいたします。続きまして、秘書広聴課所管の市長と市民のランチミーティングについてご説明いたします。資料 20 ページでございまして、2回のランチミーティングを実施済みでございます。1回目は2月23日、中央高校の生徒会役員8名と小美玉学校給食センターを会場に、羽鳥駅橋上化と東口市有地活用についてをテーマに懇談いたしました。2回目は2月27日に女性会50名の皆さんと四季健康館を会場に、女性会手作りの昼食を囲んで懇談いたしました。課題等につきましては、有意義な懇談の場となるようテーマを決めておくこと意見交換もしやすくなるということですので、参加申込者と事前にテーマを協議して参りたいというふうに考えております。</p> <p>続きまして、秘書広聴課所管の地域におけるシビックプライドの条制事業についてご説明いたします。資料 21 ページをご覧くださいと思います。本事業の中にはダイヤモンド筑波フォトコンテストと、小美玉市情報発信ボランティア育成事業がございまして、まず、フォトコンテストの実施状況及び成果といたしましては、昨年5月から7月にかけて作品を募集したところ、フォト部門で12名、コラージュ部門で26名から応募がございました。1次審査、2次審査を得て各部門から最優秀賞1点、優秀賞2点、市長賞1点を決定しまして、市民の日記念式典において表彰を行いました。課題等につきましては、ダイヤモンド筑波の写真撮影は気象状況によって左右されますので、より多くの人に応募していただけるようコラージュ部門の企画を充実させていきたいというふうに考えております。最後に情報ボランティア育成につきましては、最後25ページの市民協働課所管の移住者向けコミュニティ情報発信事業と連携した事業を実施したものでございます。内容につきましては、パソコン研修会を開催する</p>

	<p>にあたり、講師の謝金をこちらの情報ボランティア育成事業から支出するもので、実施状況それから成果等につきまして詳細につきましては後ほど市民協働課のほうより説明いたしますので、よろしく願いいたします。以上で説明を終わりにいたします。</p>
佐々木まちづくり戦略室長	<p>企画調整課の佐々木です。着座にてご説明をさせていただきます。最初に説明する事業でございますが、事前にパンフレットのほうを配布させていただいております。人生シミュレーションというものなのですが、こちらの青い表紙と紺色の表紙です。こちらが完成品となっております。資料22ページをご覧くださいと思います。事業は人生シミュレーション作成委託事業ということでございますが、こちらの事業はターゲットを20歳から30歳の若者にしぼりまして、市で受けられる支援内容等についてストーリー性をもたせ、すごろく形式にてご紹介しております。また生涯収支や住環境等のデータについて、小美玉市に住み続けた場合と都内に住み続けた場合を比較した内容となっております。作成部数につきましては男性版、女性版それぞれ7,500部、合わせて15,000部作成いたしました。決算額につきましては183万6,000円となっております。作成したパンフレットの配布等につきましては、市内でのイベント等で配布を予定しておりますが、特に成人式での配布、そして首都圏等で行われるイベント等を考えておりますが、特に首都圏で行われるイベント等につきましては機会が少ない状況でございますので、当面はこの後説明をさせていただきます未来カレッジ関連のイベントや、同窓会事業、並びに都内にある県のアンテナショップや、移住定住関連のふるさと回帰支援センター等への設置を図って参りたいというふうに考えております。続きまして、23ページをご覧くださいと思います。ダイヤモンドシティ・プロジェクト推進事業でございますが、この事業は広告代理店の電通が行う、未来カレッジという事業を軸にいたしまして、大きく分けて3つの事業を組み合わせ実施をしております。まず1つ目は、マーケティングストーリーになります。こちらは市の職をテーマにワークショップ形式の講義と、参加者自らがそ・ら・らにおいて、マーケティングの手法を取り入れたアンケート調査を行いまして、スクールで学んだPR戦略の成果について感じる事ができ、参加者は3回実施いたしました。延べ150名の参加がございました。続きまして、モニターツアーになります。こちらは東京都のOLに無料配布をしておりますシティリビングという情報誌がございまして、こちらの読者へモニターツアーの参加を募集いたしまして市の魅力を体験してもらい、小美玉市のPR隊への参加を促すものでございます。ツアーの参加者は、募集314名の中から抽選で39名が選抜をされまして、ツアーの方にご参加をいただきました。ツアー後のアンケート調査の中で、ツアー内容並びに小美玉市の評価につきましては、好評化をいただいたところでございます。PR隊の参加申し込みは30名ございました。その中からさらに選抜をいたしまして、12名の方をPR隊として任命させていただきました。このPR隊には市の特産品やツアーで巡った施設、名所などSNSを通じて、情報発信をしていただいております。市のPRに寄与をいただいております。このPR隊の皆さまには、今後市のイベントにもご協力をいただく予定でございます。そして次に、婚活移住促進プログラムになります。ワークショップ、東京でのPR、移住促進体験ツアーで構成し、実施をいたしました。ワークショップでは、体験に参加する8名の地元男性に対し、婚活のプロを招いて女性とのコミュニケーションを学びました。そして体験ツアーに興味を示している東京の未婚女性に対し、小美玉食材を使用したクリスマスケーキを作るキッチンイベン</p>

トを東京で行いまして、島田市長にもご参加をいただき、市のPRをしていただきました。また移住者によります体験トークなどについて魅力を感じていただきました。また、体験ツアーの参加意欲を高めることができました。このキッチンイベントに参加をいただいた方は23名でございました。最後の体験ツアーでございますが2月11日、12日の2日間で実施をいたしまして、参加者は地元男性が13名、首都圏からの女性は11名ということになりました。小美玉市や近郊地域を巡りながら、自然な流れで交流を深めたツアーでございまして、最終的に5組のカップルが誕生いたしました。現在も連絡を取り合いながら、進行を深めていると聞いております。ツアー終了後も婚活のプロが支援サポートを行っておりますので、結婚まで繋がることを期待しております。全体的な反省点といたしましては、事業着手が9月ということになってしまったこともございまして、時期的に食材や市内の観光名所など案内できなかったことがあげられます。参加者からは好評化をいただいております。小美玉市の良さを伝えられたというふうに感じております。またPR隊の活用として今後どのような場面で協力いただくのが良いのか、今後の事業に活かせるよう対応して参りたいと考えております。そして最後に24ページをご覧いただきたいと思っております。こちらの事業はふるさと同窓会応援事業ということで、定住人口増加と地域経済の活性化を図るため市内で開催される同窓会に係る経費について、参加者1人につき2,000円の助成を行うものでございます。昨年6月1日より募集開始をいたしまして、2件の申請がございました。参加人数62名に對しまして12万4,000円の補助金を交付しております。今年度の交付件数は少ない件数ではございますが、問合せは10件以上ございまして、年齢要件に合わないということで対象にならない案件が多くございましたが、課題といたしましては対象年齢をしぼりすぎたことが対象件数が少なくなってしまうということでございます。来年度以降は40歳以降の方についてもユーターンを考えているケースも想定されますので、年齢要件の拡充を検討していきたいというふうに考えております。また同窓会の規模によりましては、市内飲食店で実施できないという電話がございまして、こちらにつきましても来年度以降は、市外の飲食店でも実施できるように要件緩和を検討していきたいというふうに考えております。企画調整課所管事業の説明は以上です。よろしくお願いたします。

貝塚市民協働課長補佐

市民協働課の貝塚です。よろしくお願いたします。着座で説明させていただきます。25ページ事業名 移住者向けコミュニティ情報発信事業でございます。内容といたしましては、まちづくり組織が中心となりその活動などを広く紹介することで、小美玉市の興味をもってもらうことと伴に、市民団体の活動、行政区の状況を知ることで移住、定住に寄与すること及び在住者に対しては、まちづくり組織連絡会を中心とした市民活動への理解、参加を促してパソコンを活用してパソコン塾の開催を行います。実施状況につきましては、学区まちづくり組織の心触れ合う羽鳥の会開催の、羽鳥地区パソコン塾を実施しております。②にパワーポイント講習5名ほどの参加で、11月5日から12月17日まで実施で計7回開催されました。③29年3月4日から5月2日までのワード初級、基礎、応用課題ただいま開催中でございます。6名の方がいま学んでいる状況でございます。また、まちづくり組織連絡会の紹介リーフレットを1万5,000部作成して、市内全体に全戸配布と伴に公共施設にも配布しました。今日お配りしておりますので、ご覧いただければ有難いと思っております。課題といたしまして、学区まちづくり組織への働きかけが十分ではなかったということと、各まちづくり組織から広報担当者を集めて全体で活動できる環境がなかったという

	<p>ことです。②に紙ベースの情報発信となっていることから、ICPを活用した情報発信の構築、ICPとは情報通信に関する技術の総称でございます。③各まちづくり組織のホームページ等の開設に向けた取り組みが求められております。対応策等につきましては、各組織の広報担当者を集めて会議等の開催、これまでの活動記録、写真データ等の整理整頓ということと、フェースブック、インスタグラムなどを活用した若年層に向けた情報発信。④情報発信に関しての個人情報の取扱い等のマニュアル化を対応策としていきたいと思っております。以上で市民協働課事業のご説明を終了させていただきます。</p>
岩本委員長	<p>以上で、ダイヤモンドプロジェクト進捗状況のご報告がありました。委員の皆さんから何かご意見等ございましたら。</p>
谷仲委員	<p>谷仲でございます。着座にて失礼いたします。先ほど平成28年度ダイヤモンドシティ・プロジェクト関連事業進捗状況ご説明ありがとうございました。このダイヤモンドシティ・プロジェクト関連事業、本格的にこれから進んでいくわけになりますが、この事業事態がハードよりもソフトのところのソフト面の要素がもうほとんどになってくるかと思えます。そうした中で今回見やすい表に事業内容、実施状況及び成果、そして課題及び反省点、対応策というような、見やすい形でご提示いただきまして、この28年度の事業につきまして説明いただき、今後この実施期間というのがまた29年度30年度31年度32年度というところで実施期間でございますので、この課題と反省点、それと対応というところで、次この課題を克服するような形での取り組みに、いい形に改善していくことが大切かなと感じております。そういうところを含めて特にソフト面、先ほども申しましたがソフトのところですので、継続性が必要になってくるかなというところ。よく情報発信というところで映像、おみたんが空を飛ぶという、おみたんの夢で空を飛べるんだねなんていうコメントが、フェースブックあたりにも載っていますが、そういう取り組み私もいろいろシェアさせていただいて、小美玉以外の方から結構、「いいね」いただいておりますので、そういう取り組みも徐々に広がっていく形で、小美玉という名前を、これは全国発信できますので、そういうのもすぐにはなかなか成果というものは難しいかと思うのですが、なかなかこういう取り組みをしている自治体はそんなになく、珍しい取り組みだと思えます。またホームページのほうもリニューアルされまして、ダイヤモンドシティ・プロジェクトに関連したデザインで、そういうところで個人的に好感をもっているところがございますので、こういった取り組みをしっかりと事業の、議会の承認を受けた事業というところで、これはしっかりと継続していく段階かなというところであります。そういったところでこれは要望なのですが、結果は1年2年ですぐぼんという形は特にソフト面では難しいと思えますので、地道な形の取り組みが大事かなというところを考え、そこのところをしっかりと基本に、新しいアイデアでいろいろ改善を図っていただきたいというところがございます。DMOについては、このあとまたお時間あるということなので、DMOの件についてはまたその時にお尋ねしたいと思いますので、要望という形でございますが、よろしく願いいたします。以上です。</p>
福島委員	<p>いろいろこの前も映像見せていただきましたけれども、市民の方にみんながみんなパソコンでそういうものを検索できるという人ではないので、映像を見てまず市民が小美玉市ってこんないいよねっていう感じが受けたらいいなと思</p>

	<p>って私も今度私がやっている商品生活の会の総会の席で、この映像を是非流していただくようお願いしたいんです。やっぱりいま総会の時期ですので、市民に向けてもそういう職員の方からいろいろな団体のところにも働きかけていただいて、小美玉市のいいところをまず市民にも知っていただく、そして移住してもらおうという感じを作れたらいいなと思っていますので、まず市内からPRを一生懸命してもらおうような、言葉かけも職員の方からもお願いしたいなと思っています。要望と感想です。</p>
岩本委員長	<p>執行部の皆さん、よろしくお願ひします。他、ありますか。</p>
小川委員	<p>昨日の茨城新聞に転入者住宅購入助成ということで、小美玉市出ておりました。新聞の切り抜きが貼ってあるのですが、やっぱりこういうことが市として市民の皆さんや市外の皆さんに、こういうふうに取り組んでいるというのがはっきり広報、情報を流していただいたわけなのですが、こういうことが大事ななということで、前段の進捗状況報告がありました。予算の執行率も90何パーセントか出ているわけなので、特徴ある施策をマスコミを通じて発表してもらおうというふうに感じましたので、よろしくお願ひします。</p>
岩本委員長	<p>他、ございますか。今、各委員さんから要望等いろいろありました。よろしくお願ひします。このダイヤモンドシティ・プロジェクトなんですけど、若手の職員さんが一生懸命核となって作った事業になっています。その職員さんはずっといるわけですから、ずっと携わっていただいていい成果がでるように。谷仲委員さんからも意見あったように、すぐ成果がでるものではないと思うのですよね。良く検討しながら、それと今回は事業内容、成果のほかに課題と反省点、対応策までつけていただきました。大変見やすく有難いと思います。この課題とか反省点が見えてくると対応策が出てくる、それで繋がっていくような形で、どの事業も内容趣旨等素晴らしい事業だと思います。ただかといって事業を行えば成果がでるという問題でもないと思います。だからこういった課題とか反省点を良く踏まえて、回を重ねるごとにいい事業になっていくように頑張っていたいただければと思います。それとこの事業も例えば、担当の所管とか課を超えて一緒に行えば相乗効果があるであつたりとか、お互いにその事業の中で他の事業もPRしたりだつたりとか、そういった相乗効果もやりようによっては期待できるのかなという部分もありますので、よろしくお願ひしたいと思います。ここで10分間休憩したいと思います。40分まで休憩ということで、よろしくお願ひいたします。</p>
	<p>休憩 14:30 - 14:40</p>
岩本委員長	<p>それでは、休憩前に引続き会議を開きます。2番項 政策提言の進捗状況について倉田政策調整課長。</p>
倉田政策調整課長	<p>着座のまま失礼いたします。それでは政策提言の進捗状況について、まず、提言1の羽鳥駅周辺整備事業推進の進捗状況について、ご説明いたします。資料1でございます。昨年5月に羽鳥駅周辺整備に関する政策調整会議を立ち上げまして、28年度は4回開催しております。前回の特別委員会で報告させていた</p>

だいております。これについては省略させていただきます。また学識経験者や議会、行政、市民の方々に構成される、羽鳥駅東口拠点整備等検討委員会を立ち上げまして、28年度は4回開催しております。第1回会議につきましては、前回の特別委員会で報告しておりますので、資料には第2回会議から掲載しております。第2回会議につきましては、平成28年の12月22日に開催しまして、駅自由通路乗降口の名称を、東口・西口にするということ、それから市民が羽鳥駅及び周辺地域に愛着や誇りをもってもらうための気運条制企画について検討しまして、自由通路の北側壁部分に、市民参加方の壁画設置及び発車メロディーの選曲の検討を行いました。また市有地を活用した施設につきまして、ワンストップ機能にぎわい創出のための施設、サロンのスペースとしての多目的スペースの3点について、協議を進めていくことといたしました。第3回の会議につきましては、平成29年1月20日に開催し、駅周辺整備に向けた気運条制企画として、壁画の設置及び発車メロディーの設定への検討、さらに市有地を活用した施設について検討を行いました。気運条制企画の壁画設置につきましては、壁画デザイン全体の図柄を決めるプロセスの設計を有識者の方に依頼し、公募で全体デザインを決定すると共に、個々にデザイン政策に参加できる企画といたしました。また発車メロディーにつきましては、市ゆかりの曲、市ゆかりの人、市の花・木・鳥、茨城空港、ダイヤモンドなどのジャンルから、市民参加による選曲を検討することといたしました。次に、市有地を活用した施設につきましては、施設を24時間明かりが灯るまちの灯台に見立てて、明るく安全安心であることを基本に、こういう施設があるといいというような考え方を提言書に盛り込むことといたしました。また業者の選定方法の検討を行い、一般競争入札、総合評価落札、公募型プロポーザルについてそれぞれの内容メリット、デメリットを確認し、民間活力を導入する手法を基本として、プロポーザル方式など多くの民間が参入できる方法を考慮することといたしました。第4回の会議につきましては、平成29年2月17日に開催いたしました。これまでの会議の検討内容を整理したうえで、1としまして、駅等市有地施設の一体的整備、2としまして、整備にあたり市民の意識条制が図られる取り組み、3としまして、市の玄関口として自然豊かなイメージ景観作り及び市有地のアクセス整備、4としまして、まちの灯台として安全安心交流学習生活支援に資する施設整備、以上のような内容を盛り込んだ提言書の取りまとめを行い、去る3月16日に市長へ提言書の提出が行われました。今後につきましては、検討委員会の提言を受けまして、羽鳥駅周辺整備に関する政策調整会議等にて、図書館や窓口業務、民間施設のあり方などの詳細について、専門的かつ具体的な検討を進めて参りたいと考えております。提言1につきましては、以上でございます。続きまして、提言2、茨城空港拠点地区の各種施策の推進、空の交流エリアの進捗状況についてご説明いたします。資料2でございます。昨年5月に企業誘致に関する政策調整会議を立ち上げまして、28年度は3回開催いたしました。1回目2回目の会議は、前回の特別委員会で報告済でございますので、3回目の政策調整会議のみ掲載しております。内容につきましては、優遇制度の検討といたしまして市内に意見募集をした結果のうち、固定資産税免除期間の拡大、雇用奨励金、用地取得奨励金、上下水道料金免除の4項目について、実施の可能性を検討いたしました。まず、固定資産税減免期間の拡大につきましては、既に実施している3年間の固定資産税免除について、期間を5年間に拡大できないかというものでございます。周辺自治体の免除期間は3年が多く、5年間の免除は優遇制度の目玉となることから、詳細な内容について検討を進めて参ります。次に、雇用奨励金につきましては、市内に住

民票を有する方を正社員として雇用した場合、その人数によって奨励金を交付するものでございます。既に実施している自治体も多く、足並みを揃える意味でも、実施に向けて制度設計を進めて参ります。次に、用地取得奨励金につきましては、立地にあたり用地取得の一部を補助するものでございます。立地場所としてテクノパークのみとするのか、空港線沿線なども含めるのか、また対象となる業種をしぼるのかなど、条件を整理して制度設計を進めて参りたいと考えております。次に、上下水道の使用料の免除につきましては、使用料の減免をした場合、財政負担の増が懸念されることから、ビジネスホテル誘致など条件をしぼって実施が可能かどうか検討して参ります。2項目目、他自治体で策定されているホテル誘致条例の内容について坂東市、千葉県松戸市、愛知県東海市、大阪府岸和田市や泉市の事例を調査いたしました。これら先進事例を参考にしながら立地箇所や補助方法、上下水道の使用料免除の可能性について整理しまして、ビジネスホテル誘致の省令措置について検討して参ります。3項目目 免税店につきましては、既存の販売店が免税販売を行う場合の許可条件を確認しまして、他自治体で免税店開設に対して実施している支援内容を調査いたしました。各項目の今後につきましては、当概概該条件や検案となる事項を整理しまして、周辺自治体の状況を踏まえながら、検討を進めて参りたいと思っております。提言につきましては、以上でございます。提言3、玉里地区の観光振興、水の交流エリアの進捗状況についてご説明いたします。資料3-1をご覧くださいと思います。昨年7月に、玉里地区の観光振興に関する政策調整会議を立ち上げました。28年度は3回開催しております。1回目2回目の会議は前回の特別委員会で報告済でございますので、3回目の政策調整会議のみ掲載をしております。内容につきましては、玉里地区の地域資源を活かした観光企画を全職員に呼びかけまして、18名から寄せられた41件の提案について、各所管の意見を確認いたしました。これにつきましては、資料3-2として提出しておりますので、後ほどご参照いただければと思います。議会からいただいた提言と職員からの提案によりあらかた材料が集まったことから、商工観光課と生涯学習課、政策調整課の3課で部会を組織しまして、専門家から意見を聞きながら今後の方策についてまとめ、政策調整会議に提案することといたしました。2項目目になりますが、早速3月にはDMO調査を委託しているJTBを招きまして、観光の現状とこれからの展望について話をお伺いしました。JTBからは観光資源を繋いだ観光ルートの開発や、ツアー企画などについて話が進んでいくものと想像しておりましたが、時代は全く違う方向へ向いていることに気付かされました。ツアー会社に丸投げをしてツアーを企画することは簡単でございますが採算が取れるか、あるいはツアー客が集まるかということについては、大変厳しいということでございました。その理由は①の観光の現状についてのとおり、観光客の趣向が変化しているということからでございます。国は地域観光を地域経済活性化の推進力に位置づけておりますが、受け入れ態勢の整備を始めとした具体的な誘客促進策が遅れています。近年観光客の趣向が団体旅行から個人旅行、いわゆるFITの旅行が格安航空券の普及に伴い、一般旅行者に広がっています。岐阜県関市のモネの池、ジブリの世界のようだとSNSで話題となった千葉県君津市の農溝の滝のように、写真1枚で世界中から観光客が来る時代でございます。これまで地元でしか知られていなかったもの、価値が高くないとされていたものを掘り起こして商品として磨きあげ、増やし続ける体制作りを行うことが求められています。FITといってもそれぞれ趣向が細分化されているということで、これらが企画した内容が合うかどうか、心に刺さるかどうか、とにかく良いと思う企画を沢山

	<p>作って選択肢を増やすこと。②これらの展望について、平日にフラット来て体験ができることが大事なポイントでございます。また体験、買物、食事、宿泊のフルセットを1つの自治体でまかなうことはFITの趣向に合わないということで、広域で誘客しながら体験、買物、食事、宿泊どれか1つだけでも小美玉市で獲得できるよう徹底的に磨き上げるのが戦略として良いのではないかとこのようなことをごいました。国も地域間連携を推奨し、持続的に生み出し続けるための人材育成等に手厚く助成しています。近隣自治体はライバルではなく伴に戦う仲間と認識すべきでありまして、今後の検討事項に示したとおり、定住自立圏事業など広域における誘客力の向上や、広域で誘客しながら埋もれた地域資源を見つけ磨いて、コンテンツを作り上げ発信できる人材を育て、インターネット等で販売決算できる売り場を持つことが求められています。今後これらをマネジメントし、戦略を立てて着実に実施するDMOを立ち上げを視野にいれながら、さらに各方面の専門家から情報収集して参りたいと考えております。提言3については以上でございます。続きまして提言4、自治体連携による人口増加対策の推進についてご説明いたします。まず、資料4-1をご覧くださいと思います。自治体連携の調査研究につきましては、先の全員協議会でもご説明いたしましたとおり、人口減少が地域にもたらす様々な課題に、県央地域首長懇話会の構成市町村で一丸となって対応するため、茨城県央地域定住自立圏の連携事業を、この4月からスタートいたしました。医療、福祉、産業振興、環境、教育、地域公共交通、人材育成の7つの政策分野を平成29年度事業一覧としてまとめましたので、後ほど内容についてはご覧いただければというふうに思います。茨城県央地域ならではの強みを活かしながら、これまでに培ってきた連携をより一層強化し、生活機能の確保や地域の活性化に資する取り組みなどを通じて、人口の定住に繋げると共に、景気全体の活力を創出し、持続可能な定住作りを目指して参りたいと考えております。次に、資料の4-2をご覧くださいと思います。災害協定の提携推進につきましては、これまで42の災害応援協定を結んでおります。この中には、行政機関との災害時応援協定や、民間団体との生活物資の供給協力、さらには社会福祉法人との福祉避難所の設置運営のほか、応急作業、輸送方法、医療救護など様々な協定がございます。なお現在、郵便局との災害時応援協定締結に向けて進めているところでございまして、6月ごろには締結できるのではないかなというふうに思っております。今後も各所管において、災害協定の締結について調査研究を重ね、協定の締結推進に努めて参りたいと考えております。最後に、高齢者施設等の受け入れ推進につきましては、先進事例や県及び周辺市町村の情報を踏まえながら、引続き検討して参りたいと思っております。以上で説明を終わりにいたします。</p>
岩本委員長	<p>以上で説明終わりました。ご意見ご質問がある方は、挙手によりお願いします。</p>
小川委員	<p>1点お聞きします。第2回の羽鳥駅東口拠点整備検討委員会開催ということで、羽鳥駅の発車メロディーについて検討なんですけど、この発車メロディーは現在も流れているのですか。</p>
倉田政策調整課長	<p>チャイム的な音楽は、チャイムですね。歌声ではないです。電子音のような音は入っているようです。</p>

小川委員	現在はまだメロディーは流れていない。これから公募して、はい分かりました。以上です。
岩本委員長	他、ご意見とかありますか。
福島委員	度々すみません。タベ、所さん、大変ですよという番組を観ていまして、昔の大きな有名な観光地、観光の問題なんかは観光地がものすごく今廃墟化しているというような番組から、特色あるところには国が補助を出すと2千億円という金がいくんですよとあって、それをどうそれぞれ今エリアとして国はどこどこということを決めて、その2千億円というのが使われるという話しになっていましたけれども、今いろいろ提言している中で全部を呼び込むというのはとっても難しい問題、やっぱり小美玉市ダイヤモンドみたいに1つのものを磨きあげて観光化していく、ここに来るとこういうことが体験できるんですよ、こういう1つの美味しいものがありますよというそういう方向でないと、今後は生き残れないのかな、なんでもかんでもという時代とは違って、団体旅行が段々減っている中で、外国からも個人で来る人が非常に増えているというような話もありますので、そこらへん小美玉市の皆さん職員さんは一生懸命考えているんだなということを感じながら今聞かせていただきました。大変難しい問題ですけども、今後共よろしく願います。感想です。
岩本委員長	他、ございませんか。
木村委員	すみません先ほどのメロディーの続きなんですけども、市民がみんな統一して口ずさめる歌というのがしばらくしないような気がするんですけども、美野里時代にはふるさと祭りで美野里音頭なんてみんな口ずさんでいたような気がするんですけども、このメロディーもそうですけど、ふるさとふれあい祭りの席などでも、おみたん音頭でもなんでもいいんですけど、みんなが共有できるようなそういうメロディーみたいのが何か是非欲しいなと、いつもいろんなイベントのときに感じているんですけど、提案でございます。
岩本委員長	執行部の方、誰か。
滑川市民協働課長	市民協働課滑川でございます。今、木村委員のご質問ですけれど、合併当初まちの踊り唄ということで、「大きな大きな輪になろう」というのが、今ふれあい祭り等で流して市民に定着しているような音楽かとは思いますが、それとは別に公募して集めるような方法もあるということだと思いますけれど、今のところは市のメロディー的には、「大きな大きな輪になろう」かなと思います。以上です。
岩本委員長	検討の方をよろしく願います。他、議員さんから何かありますか。検討事項だったりとか、課題が結構見えてきている部分があるのかなと思います。これもこれで収穫だと思います。事業を進めていく上でいろいろ課題が見えてきたりとか、あとは検討する部分、調整する部分出てくると思います。こういったのも一度ご報告いただければと思います。よろしく願います。他ありませんか、いいですか。それでは3番項、その他に移ります。

中村商工観光課長補佐

では、私のほうからDMOについてご説明いたします。先ほども少しだけDMOの説明をさせていただいたところですが、もう一度繰り返させていただきますと、DMOとはディステーション目的地、到着地、マネジメントMというのが2つございまして、マネジメントとマーケティング、こちらは経営、市場とも言われます。オーガニゼーション組織、団体ということで、DMOはこの頭文字を取って、DMOとなっております。このDMOとはなんぞやという話から入ることになるのですが、DMOとはまちづくりと共に、地域住民が観光産業や行政と連携しまして、地域自らが誘客事業を行う着地型観光のプラットホームで、これまでは行政や観光関係者、地域住民がそれぞれの立場で活動してきましたところを、観光地域作り協議会を中心にした地域全体の合意形成を図りながら、誘客や人材育成の、ノウハウを持った民間企業へ事業を委託し、科学的なデータを根拠とする戦略策定を行い、民間主導の効果的なプロモーションや、誘客を図りまして観光産業を中心に地域経済の活性化を推進するというものでございます。またDMO組織、こちらまちづくり会社とも言われますが、その自体も事業実施など安定した自主財源を獲得しまして、地域における継続的な活動を図り、地域のリーダーとなり得る人材の育成も行うということです。お手元に配布されています官公庁からのカラーコピーしてある資料をご覧くださいなのですが、これまでの観光地域づくりの課題といたしまして、まずそこに3つでております関係者の巻き込みが不十分ということで、地域の関連事業や住民との多様な関係者の巻き込みが不十分だと、不十分ということは地域の幅広い資源を最大限の活用には繋がらない、地域住民の誇りと愛着を調整する豊かな地域づくりにするにはならない、データの収集分析がまた不十分であった、来訪客に関するデータの収集分析が不十分であって観光客を十把一絡げに扱っている地域が少なくなかった。ターゲットとなる顧客数や地域のコンセプトが十分に練られていない、変化していく観光市場に適応していないということ。また民間的手法の導入が不十分で、好感的なプランニングやプロモーションといった民間では普通に使っている手法の導入が不十分である。観光客に対して刺さる競争力を持つ観光地ブランディングができていないということで、これまでの観光振興というものは行政観光関連事業中心の旅行振興といわれるものでして、これからこのDMOが目指すものとしたしましては、多くの産業や住民等と一体化となって観光地域づくりを進めて地域に稼ぐ力をつくろう、図っていこうというものでございます。2ページ目をご覧くださいと図が載っているかと思いますが、こういった多様な関係者との連携を図りながら、内外の人材や、ノウハウを取り込みつつ、関係者と連携を取り合いながらこの真ん中にくる見本版DMOといわれる法人学でありますこちらを、人をこういう形でDMOの多様な関係者との合意形成をしていくか、1つの核となる小美玉市の核となるものを何にするか、これから多様な関係者との合意形成を行う中で、図っていかななくてはならないことと思っております。このような合意形成がなされますと、まず協議会、登録をするか否かということにも係ってはくるのですが、もしこのDMOという登録となりますとその流れといたしましては、まず、小美玉市の観光地域づくり協議会というものを立ち上げまして、その下に事業検討部会、ワーキンググループ実際に活動できる部会をおきます。その中に例えば移住交流検討部会、特産品検討部会、高校生検討部会、スポーツジムづくり検討部会など、もろもろの小美玉市独自の部会を設置いたしまして、そこで話し合いの中で戦略策定等をして、その上の協議会のほうに合意形成を求めるといったものでございます。これを行うことによりどういった効果が現れるかといったところが、小美玉市でも今検討中、

	<p>先ほど言った分析結果をもとにこれから検討するところをごさいますて、今後、部内で様々な調査検討をしていきたいところでは思っております。最後に、見本版DMOの成功事例ということをつけさせていただいているのですが、現在DMOの成功事例といわれるものは、この中にいくつか書かれてはおりますが、何をもって成功とするかということなのですが、今ただ会社を立ち上げて黒字となっているということしか成功事例がございませんので、今、本当に日本国中で皆さんが検討して考えているといった形になっております。一番最後に変ったものをつけさせていただきました。現場ドッグは商社マン、バス会社をDMO関連連携モデルということで、こちらは交通事業者や金融機関等と一緒に商社出身の商社マンを招いて、DMOの組織をつくり始めたというちょっとした事例がございましたので、載せさせていただいております。今後小美玉市のDMOといたしましては、今年、分析結果が出たものを基に進めるとなると、短いスパンで5年間くらいでDMOを確立させ自立させるという早々早い目標を立てなければならないとなっております、このDMOをやるとするならばどういったもので、どういった人を中心にもってくるかが検討課題となるかと思われまます。簡単ですが、説明させていただきました。</p>
岩本委員長	<p>今、DMOの説明がありましたけども、DMO自体なかなか理解が難しいものではあるかもしれませんが、例えば小美玉市の観光資源であったり、観光ビジネスを発信させていう上で、小美玉市単独では難しいかもしれないけど、連携してやればもっともっと効果があるような部分もあるのかなと思うのですが、実際いろいろ調査しながらこういった部分も可能性として模索していきたいと思うんですが、委員さんのほうからご意見等あれば、よろしく願います。</p>
谷仲委員	<p>私のほうから何点か、このDMOについて今ご説明いただきました。今年の2月7日に観光協会さんのほうから地方創生に関する件でご案内をいただきまして、岩本委員長と私のほうで主催が株式会社常陽銀行で、講演の内容が新時代の地方自治体ブルーウェイセミナーというところで、テーマが、訪日外国人客4千万人時代の地域創生という講演を聞いて参りました。その中でやはりDMOについて地方創生とDMOというところで、そこで講師の先生が株式会社三菱総合研究所の地域創生事業本部首席研究員の方で宮崎先生という方の講演なのですが、あえて地方創生ではなく地域創生という表現を使われておりました。そこでそのDMOの係りというところで、出どころが第7回まち・ひと・しごと創生会議資料平成27年10月のところの引用で、DMOとは先ほどご説明いただいたのと同じですが読んでみます。地域の稼ぐ力を引き出すと共に、地域への誇りと愛着を条制する観光地経営の視点に立った、観光地域づくりの舵取り役として多応な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定すると共に、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人という説明がございます。先ほどDMOをやるならばというような説明だったのですが、まずこのDMOをやるかやらないかここをハッキリしないといけなかなと思います。そのDMOで、その中で先ほど小美玉市の核となるもの、やっぱりそれは小美玉の核となるものは何か、コアの形成ということとしっかりとした核をもった上、それと先ほど玉里地区の観光振興進捗状況の資料にもありましたようにこのFITですね、LCCの発達によって個人客が増えてきた中で、個人客ですと移動手段でそんなにお金をかけられないという現状があるそうです。そういうところで先ほど小美玉市</p>

	<p>の事業であるならば、小美玉市によって取り組みというところもあるかと思うのですが、先ほど岩本委員長のほうも連携する形の取り組みで広域的なところの視点、私は先ほどの進捗状況の中でこれからの展望で、体験会後の食事、宿泊のフルセットを1つの自治体で狙うのは現実的ではないと、広域で誘客しながらどれか1つだけでも小美玉で獲得出来るよう磨くというふうにもありますように、広域的な取り組みの中でのDMO形成というところに主はもうおいてもいいのかなというところで私は捉えております。そういう中で1つ気になったのがDMOをやるならばというところの言い回しです。これはやるかやらないかハッキリ、やるのであればこうやっていきますというところの意識をしっかりと持っていかないと、中途半端で終わってしまうかなというところを懸念しておりますのでそういうところをしっかりと明確に、特に小美玉で何を核にしていくかというところ、これは今トータルでいうと酪農とか生乳を使ったヨーグルトとか漠然と抽象的なところはあれですが具体的にというところ、それと今度ヨーグルトサミットというのが事業であるかと思いますが、そういうのも効果的に活用していくと例えば乳製品というところが1つの核になってくるかなと、そういうふうを感じているところでございます。とにかくやるかやらないかハッキリとして明確な取り組みというところ期待するところでございます。そういうところでございます。以上です。</p>
岩本委員長	<p>ありがとうございます。他、委員さんの方で何かご意見ございましたら。これDMO広域とか地域連携とか、地域単独のもあるんだよね。</p>
市村議長	<p>1つパッと考えられるのは、茨城空港を1つの核とした観光や地域の連携かなと思いますけども。</p>
岩本委員長	<p>ありがとうございます。私も空港を核にしてあとは観光のほうで県内にはいろいろね。空港に訪日の方たちが来てくれたとしても、小美玉市では観光って足りるのかといっても宿泊にしたって無理だし、観光だって小美玉で2日も3日も泊まっているということは現実的に考えられないので、だとすれば県内でだったり、大洗、那珂湊、つくば、あとは袋田だってあるし、いろいろあるいは日光のほうまで足を延ばしてもいいわけだし、そういったところでうまく連携取れば各々の地域が発信出来るのではないかななんて思うんだけど、いろいろ難しいんだよね、これ見ると、執行部の方にいろいろ調べてもらって、私らも勉強しますので、出来れば研修辺りでこういう事例のところに行ければ一番いいのかなと思っておりますけども。他の委員さんでご意見いただけますか。いいですか。これは今後検討していきましょうということで執行部のほうもいろいろ調査していく上で、都度報告等いただければと思います。よろしく願います。では、その他のほうに入りたいと思います。野村委員のほうから願います。</p>
野村委員	<p>今日は私の不手際で、大事な地方創生の委員会遅れて申し訳ございませんでした。実は私、茨城県経営者協会というところの理事をやっているわけでございまして、たまたま3月に会議がございました。茨大の学長から全部呼ぶんですね。その中にお話ししましたがけれども、藤井敏生君の息子さんがその事務局長でその事務を一手に代表でやってございまして、たまたま私の前に座った、健忘症になっておりますので名前は忘れたのですが、地域創生に関する権威の方で教授さんがおまして、今その書類を持って来てくれないかと電話し</p>

しているところなんですけれども、地域創生を研究している教授なんです、今日の会議で先生はいつでも行ってやってあげるよという話しをしておりました、そのためにうちで副議長をやっている藤井議員さんの息子さんがここに藤井さんがおりますから、その人を通じてもし勉強会等々をやったときには来ていただけますかと、喜んで行きますよというお話がありました。そういう中で是非今日委員長にお諮りをしてみたらどうですかと、それでここで題目を決めておかないと今先ほど委員長が申されましたように、茨城空港を核とした地方創生等々を教えていただけませんかというような題名1つ作って、なんでもいいからやって委員会で賛成してもらえればすぐにうちの事務局長が動くことになっておりますので、もし研修会をやるといときにはどうか委員長に諮っていただきたいなど、そうならばすぐに連絡を取りまして1回は研修をすると、良く何々特区何々特区ということは分かっているんですよ、だけどそういう特区についてもどのような方法で進めていったらいいのか、そういうものをお聞きしたり研究したりするのも必要なと、我々の能力の上じゃないととても無理じゃないのかなとこのように思っているところでございます、もう1つ私は従来から交流人口をどうして小美玉に呼んだらいいのだろうかというのが私、皆さま方も考えているところでございます。そういう中で一度群馬県の川場村に行く必要があると、あそこは世田谷との交流をしているということでございます、産業経済部長には当時我妻君にはお話しはしました。しかし良く考えてみますと、やはり市長公室長、総務部長等々のその中にはやはり災害の部長、いろいろな産業の部長とかみんなが一緒になって、直下型地震があるかないか分かりませんが、あったときにはこうしよう、その前にはこういう文化の交流もしましようというような、やはり他からお客さんをお呼びしても、あまり小美玉では観光地のないとそういう中でやはり人、交流、市長がよく言うように、住んでみたい、住んでよかった、これからも住み続けたいというのは、そういう新たな人が交流人口が来て、「ああ、小美玉市はいいな」というそういう交流人口を東京辺りから呼ばないと、東京はどんどん膨れる一方だとそういう中で、やはり私は手取り早いのは災害協定もう一回、太田市で結んでおりますので、そういうものも勉強するのも必要なと、そういうことになれば川場村みたいに、川場米が世田谷の米を一手に引き受けているというようなことになれば産業のほうも繋がっていく、やはり一つ一つ段取りをしながらまずいのかなやらないと。それともう一つこれは市長選が終わってからで結構ですけども、いかに先後の池の開発をどのようにしていく、そんなにあまりお金がかからないならばあそこへ、端だとすみっこだといわれるかもしれないけれども、あそこに思い切って体育館、これは体育館は旧美野里で約3、4億の基金を作っておりますけども我々がやったのではないという、3億残したということではなく、そういうのを作れば災害に体育館も使える、そういう中であそこに広場があると、公園でもなんでもいいと、そういうものをやれば必然的に何か災害があったときにはお互いに助けあえるのかなと、やはり一つ一つ段階を踏まえてやるといいかなとこのように思うところでございます。取り留めのない話しですけど、私の考えているのはそのような方法でやれば交流人口も来るのではないのかなと、海外の方々もいいでしょうけれども、今一番標的にするのはいかに東京の茨城県と同じくらいの人口の区がいくつもあるわけですから、そういうものを標的にするといいいかなと、標的はやはり東京等ではないのかなと私は思っているところでございますので、これ空想でございますから委員長、ただ地方創生で勉強するということがあればすぐに出る体制は取っておりますので、よろしく願いいたします。市長さんそうい

	うことでございますので、よろしくどうぞ。
岩本委員長	<p>ありがとうございます。地方創生に関してはいろんな切り方もあると思いますし、いろんな見方、いろんな手法、技法もあると思います。出来るだけ私ら議員も執行部の方々もいろんな有識者の意見を聞いて参考にするということは、見識を深めるということで非常に重要なことだと思います。野村さんが言ったように茨大の教授、地方創生のほうの権威であるということでもありますし、であれば例えば空港中心としたとしても、じゃ小美玉にはどういう資源があるんだということもこういうところが盛んなんです、こういうものが名産なんですなんてこともいろいろ情報を講師の方にあらかじめ伝えておいて、小美玉市ってこういうところなんですって、例えば空港を中心にしたまちづくりってというのはどういう方向性がありますかぐらいのことであれば、具体的な提案とか意見をいただけるかなと、どうでしょうかこれは講師の方の都合によると思いますけど一度設定させていただいて、それで皆さん勉強会しようという部分で、進めさせていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>【「異議なし」という声あり】</p> <p>ありがとうございます。日程等含め、正副委員長で執行部のほうと決めたいと思います。よろしくお願ひします。それと川場村も研修のほうで入れられるかと思ひますので。議員の皆さんからご意見いただひて、前回のようひどこか同じような趣旨の委員会さんと合同でも結構ですし、ただどのくらいひの時期でということだけ決めたいと思ひますので。どうでしょう皆さん。</p>
野村委員	定例終わってから行くか。
岩本委員長	<p>6月の定例が終わってからの話しになると思ひますので、日程の方も正副委員長で決めさせていただひてよろしいですか。</p> <p>【「異議なし」という声あり】</p> <p>ありがとうございます。では、その他、委員の皆さんから何かございましたら。</p> <p>【「なし」という声あり】</p> <p>では副委員長にマイクを渡します。</p>
幡谷副委員長	以上で、地方創生まちづくり特別委員会の方を閉会といたします。お疲れ様でした。
	閉会 15:30